

ハートネットTV シリーズ 戦後71年

ハートネットTVでは、今年の夏も「戦争」について考えます。今年は、「障害者」と「高齢者」をテーマに、3回にわたって放送します。

8月2日(火) Eテレ 午後8時～8時29分

難民であり障害者である私たちにとってのシリア紛争

今世紀最大の人道危機と言われるシリアは、内戦の混乱から480万人を超える難民を生み出した。特に隣国ヨルダンには、63万人近くの難民が避難、その中には、先天的に障害のある人、狙撃や拷問が原因で障害を負った人も多く含まれる。難民であり障害者である人たちは、どんな課題を抱えているのか？

さらに、日本とのつながりの中で「ピアカウンセリング」という新たな試みも始まった。同じ障害のある人同士が対等な立場で話を聞きあい、仲間同士で支えあう。今まで「難民」そして「障害」と、二重に疎外感を抱いてきた人たちが、誰にも話せなかった心の傷や、封印してきた自らの夢を語り始めた。



出演：安田菜津紀さん（フォトジャーナリスト）、SUGIZOさん（ミュージシャン）、
安原美佐子さん（自立生活センター職員） 山田賢治キャスター

8月3日(水) Eテレ 午後8時～8時29分

わたしが見た「ろう者の戦争」

難聴の番組ディレクターが、同じく聴覚障害のある高齢者のもとを訪ね、太平洋戦争の証言を掘り起こす。兵隊になれなかった人は、「穀潰し」と蔑まれた。小学生の身で学徒動員させられた人も。教育の機会を奪われ、戦後も苦痛を強いられた。

しかし、こうした史実は、今までそう多く語り継がれなかった。深い人間関係を築けず、かつ、不就学のため、言いたいことをうまく表現できずに育った人が多くいるためだ。兵庫にある特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」では、彼らの内に眠っている体験を引き出す試みを続けている。そして、ようやく今、少しずつ壮絶な経験が明らかになってきている。戦争によって、“人生”を翻弄された人びとの証言・史実から、本当の平和とは何かを考える。



出演： 仲川文江（手話通訳）、岸博実（京都府立盲学校非常勤講師）
長嶋愛ディレクター、山田賢治キャスターほか

8月15日(月) Eテレ 午後8時～8時29分

忘れられない、雨 ～認知症と沖縄戦の記憶～

「この季節になると、戦争を鮮明に思い出し苦しむ認知症の方が多いです」6月、沖縄の高齢者施設や病院を訪ねると、こうした声を多く耳にする。この季節は、太平洋戦争末期に沖縄の地上戦が激化していった時期。日常の新しい記憶が抜け落ちていく一方で、封じ込めていた戦時中の記憶がはっきりと思い出されて苦しむ認知症患者が増えているのだ。

精神科医の蟻塚亮二さんは「痛みを伴う記憶は先鋭化して残り、それ以外が脱落する。沖縄の認知症の人は、最も強烈な記憶として地上戦の記憶が鮮明に残っていく」と語る。戦後71年の沖縄で、認知症の高齢者たちはどのような記憶と向き合い、何を伝えていくのか。人に最後まで残される『記憶』に向き合う意味を考えたい。



ラジオ深夜便 「戦争・平和インタビュー」

8月9日（火）～13日（土） ラジオ第1

午前4時台 約35分×5本

ラジオ深夜便では、戦争の悲惨さを伝え平和を求めて活動する人たちの思いを全国のアナウンサーがインタビューするシリーズ「戦争・平和インタビュー」を8月9日（火）から5日連続で放送する。

- ① 「オバマ大統領広島訪問から核廃絶へ」（9日）〔広島局〕
出演：坪井直（日本原水爆被害者団体協議会 代表委員）
- ② 「沖縄とアメリカの“かけ橋”に」（10日）〔沖縄局〕
出演：與古田光順（元 基地通訳）
- ③ 「戦地へ宛てた115通の“恋文”」（11日）〔福井局〕
出演：渡辺喜久代
- ④ 「島が返るその日まで」（12日）〔釧路局〕
出演：河田弘登志（千島歯舞諸島居住者連盟 副理事長）
- ⑤ 「世界に響け、平和の音」（13日）〔松山局〕
出演：高瀬聖子（国連平和の鐘を守る会 代表）